

味の素の成長戦略における知的財産部門の貢献実績

1. 知的財産部門の役割と活動内容

味の素は、アミノ酸をベースとした、食品、医薬品、飼料などを製造販売するグローバル企業です。その事業の成功には、知的財産部門が重要な役割を果たしています。味の素グループは、事業を通じて社会価値と経済価値の共創を目指す「Ajinomoto Group Shared Value (ASV)」を経営の基本方針としており¹、「知的財産に関するグループポリシー」を定め、競争優位の確立・利益創出・グローバルな成長に向けた取り組みを推進しています。²

(1) 知的財産部門の組織構造と人員規模

味の素の知的財産部門の組織構造と人員規模に関する具体的な情報は公開されていませんでした。³しかし、「知的財産に関するグループポリシー」に基づき、味の素グループ全体の知的財産は味の素株式会社が統括し、調査、知的財産権維持管理業務については、関係会社の株式会社アイ・ピー・イーに集約していることがわかりました。³また、海外においては、米国に駐在員、ロシアに専任スタッフを配置し、アセアン、南米の各社では知的財産のキーパーソンを指名して業務を遂行しています。特にバイオ関連技術については、日本・米国・ロシアの3拠点が連携し、強い特許権の獲得を進めているようです。³

(2) 知的財産に関する活動内容

味の素の知的財産部門は、特許出願、商標登録、技術契約など、幅広い活動を行っています。³

- **特許出願:** 味の素グループは、国内外合わせて約4,000件（国内：約1,200件、海外：約2,800件）の特許権を保有しています。⁹質と量を伴う新たな知財成果の創出により、戦略的かつ効率的な知財ポートフォリオの高質化を図っています。⁹例えば、アスパルテームに関する特許戦略では、製法、組成物および用途の各方面から特許出願を行いポートフォリオを形成することで、ニュートラスweet社とのクロスライセンスを可能にし、アスパルテーム事業を拡大しました。¹⁰また、味の素は、レトルトおかゆ、L-リジンを主成分とする造粒乾燥物、トランスグルタミンナーゼ（食品物性の改良剤）など、様々な製品・技術に関して特許を取得し、その権利を維持するための活動を行っています。¹¹
- **商標登録:** 味の素®、アジパンダ®など、多くの商標を登録・保有しています。¹²グローバルに事業を展開する上で、ブランド価値向上のための商標戦略は重要な役割を果たしています。²主要な商標の出願・登録国は、日本、アジア、米州、EMEAなど広範囲に渡ります。⁷
- **技術契約:** オープンイノベーションによる共同研究開発や、特許技術のライセンス供与など、外部との技術契約も積極的に行っています。²例えば、味の素は、抗体医薬品の開発・製造受託において、顧客に最適な製造プロセスを提供するために、特許の使用権を顧客ごと

にライセンス供与しています。⁷

(3) 知的財産戦略の策定と実行

味の素の知的財産戦略は、事業戦略、研究開発戦略と一体となって策定・実行されています。⁷ 2030年に向けたロードマップ実現のため、事業戦略・R&D戦略・知財戦略が一体となり、4つの成長領域において先駆けて特許権を獲得し、競争優位性を築くことを目指しています。⁷ これら4つの成長領域とは、

- **ヘルスケア:** アミノ酸の機能性を活用した、健康寿命の延伸に貢献する製品・サービスの提供
- **フード&ウェルネス:** 食を通じて、心身の健康をサポートし、人々の well-being に貢献
- **ICT:** 食に関する情報を活用し、新たな価値を創造
- **グリーン:** 環境負荷の低減に貢献する技術・製品の開発

を指します。⁷ 味の素グループでは、この戦略的連携を「見える化」と呼んでおり、自社/競合の特許/技術、市場の動向を分析し、パートナーシップを強化することで、成長領域における競争優位性を確保しようとしています。⁷

2. 味の素の成長戦略における知的財産部門の貢献実績

(1) 知的財産による競争優位性の確保

味の素は、知的財産を活用することで、競争優位性を確保しています。特許件数の増加やライセンス収入の増加は、味の素の成長に大きく貢献しています。¹⁴

- **主要製品・技術における特許取得状況:** アミノ酸、うま味調味料、加工食品、医薬品など、幅広い分野で特許を取得しています。⁹ 特にアミノ酸分野では、世界のアミノ酸のリーディング・カンパニーとして、高度なアミノ酸製造技術の開発に注力し、多くの特許を取得しています。⁵ 例えば、味の素は、2017年には、欧州特許庁において、L-リジンを主成分とする造粒乾燥物に関する特許を維持する決定を得ています。¹¹
- **特許による市場独占・競合排除:** 特許を取得することで、競合他社に対して優位性を築き、市場での競争力を強化しています。¹⁵ 例えば、アスパルテーム事業では、特許戦略によってニュートラスweet社とのクロスライセンスを実現し、事業を拡大しました。¹⁰
- **ブランド価値向上のための商標戦略:** 味の素®、Cook Do®など、強力なブランドを育成し、市場でのプレゼンスを高めています。¹² 商標戦略は、ブランド価値向上に大きく貢献しています。

(2) 知的財産を活用した新規事業創出

味の素は、知的財産を活用することで、新規事業の創出にも取り組んでいます。

- **特許技術のライセンス供与による収益化:** 保有する特許技術を他社にライセンス供与することで、収益化を図っています。³ 例えば、再生医療用培地の開発では、培地組成に関する特

許を保有し、顧客に最適な製造プロセスを提供しています。⁷

- **オープンイノベーションによる共同研究開発:** 大学や研究機関との共同研究開発を積極的に行い、新たな技術や製品の開発を加速させています。¹⁷ 例えば、京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) との共同研究により、iPS 細胞を効率よく培養する培地の開発に成功しました。⁷ この共同研究では、味の素が長年培ってきたアミノ酸発酵技術や培地開発のノウハウを活かし、動物由来成分を含まない、高品質な iPS 細胞培養培地を実現しました。¹⁸
- **新規市場開拓のための知的財産戦略:** グローバルに事業を展開する上で、各国・地域の法規制や市場動向を踏まえた知的財産戦略を展開しています。¹⁹ 例えば、東南アジア、欧米、BRICs など、それぞれの地域に根ざした市場開拓ストーリーを展開しています。¹⁹

(3) 知的財産リスクの管理

味の素は、知的財産リスクの管理にも積極的に取り組んでいます。

- **知的財産紛争の予防と解決:** 知的財産に関する調査・分析を徹底し、紛争の予防に努めています。⁷ 万が一、紛争が発生した場合には、専門家と連携し、適切な対応を行っています。²⁰
- **模倣品対策:** 模倣品対策として、正規品識別マークを付けるなどの対策を講じています。²¹
- **従業員の知的財産教育:** 従業員に対して、知的財産に関する教育を実施し、知的財産に対する意識向上を図っています。⁷ 味の素では、階層別、目的別に研修を組み合わせ、新入社員からリーダー層まで、それぞれの役割に必要な知的財産に関する知識・スキルの習得を支援しています。⁷

(4) ケーススタディ：特許訴訟とリスク管理

味の素は、過去にアスパルテームの製法特許を巡り、元社員から訴訟を起こされたことがあります。²⁰ この訴訟では、最終的に味の素が和解金を支払うことで決着しましたが、知的財産紛争のリスク管理の重要性を示す事例となりました。

3. 味の素の知的財産部門の今後の展望

(1) 知的財産戦略の進化と将来展望

味の素は、2030年に「食と健康の課題解決企業」に生まれ変わることを目指し、ASV (Ajinomoto Group Shared Value) 経営を推進しています。¹⁸ この実現には、知的財産戦略の更なる進化が求められます。具体的には、以下の点が挙げられます。

- **デジタル技術の活用:** AI、IoTなどのデジタル技術を活用し、知的財産活動の効率化・高度化を図る。
- **グローバルな視点の強化:** グローバルな事業展開を加速させるため、各国・地域の法規制や市場動向を踏まえた知的財産戦略を展開する。
- **オープンイノベーションの推進:** 大学や研究機関との連携を強化し、オープンイノベーションによる新規事業創出を促進する。

(2) 新技術・新事業分野における知的財産戦略

味の素は、アミノ酸をコアとした技術を基盤に、新たな技術・新事業分野への進出を図っています。¹⁸ これらの分野においても、知的財産戦略が重要な役割を果たします。

- **再生医療分野:** iPS 細胞培養培地などの再生医療関連技術の開発を強化し、特許ポートフォリオを構築することで、市場における競争力を確保する。
- **ヘルスケア分野:** アミノ酸の機能性を活かした健康食品やサプリメントの開発を推進し、特許や商標を活用することで、ブランド価値向上を図る。
- **環境分野:** バイオマスプラスチックなどの環境に配慮した素材の開発に注力し、特許を取得することで、競争優位性を築く。

(3) グローバル化に対応した知的財産戦略

味の素は、グローバルに事業を展開しており、海外売上高比率は6割を超えています。¹⁹ グローバル化に対応した知的財産戦略を展開することで、海外事業の成長を加速させることが重要となります。

- **海外における特許・商標の取得:** 主要な国・地域において、特許や商標を積極的に取得し、知的財産権を保護する。
- **海外での知的財産紛争への対応:** 海外での知的財産紛争に備え、専門家と連携体制を構築する。
- **グローバルな知財人材の育成:** グローバルな視点を持つ知財人材を育成し、海外事業をサポートする。

4. 競合他社の知的財産戦略との比較分析

(1) 食品業界における知的財産戦略のトレンド

食品業界では、従来、特許出願よりもノウハウの蓄積を重視する傾向がありました。¹⁰ しかし、近年では、競争激化や技術の高度化に伴い、特許出願の重要性が高まっています。²² 特に、健康志向の高まりや食の安全に対する関心の高まりを背景に、機能性食品や健康食品分野での特許出願が増加しています。²³ また、ブランド価値向上のための商標戦略も、ますます重要になっています。²⁴ さらに、農林水産省も知的財産戦略を推進しており、新たな知的財産戦略の策定等により、農林水産分野の知的財産の保護・活用の取り組みを強化しています。²⁵

(2) 主要競合他社の知的財産戦略

キッコーマン、明治ホールディングスなど、主要な競合他社も、知的財産戦略を強化しています。²⁶

- **キッコーマン:** しょうゆ、つゆ、みりんなど、主力製品に関する特許を多数保有しており、模倣品対策にも力を入れています。²⁷
- **明治ホールディングス:** 乳製品、菓子、飲料など、幅広い分野で特許を取得し、ブランド価

値向上のための商標戦略にも注力しています。²⁶ 各カテゴリーにおける特許競争力を分析し、戦略的に特許出願を行っています。

- **花王:** 近年食品業界に参入し、減塩調味料の分野で特許を取得するなど、積極的な知的財産戦略を展開しています。²²

(3) 味の素の知的財産戦略の強みと弱み

Strength	Weakness	Supporting Snippet ID
アミノ酸をコアとした独自技術を基盤に、幅広い分野で特許を取得	知的財産部門の組織構造や人員規模に関する情報公開が不足	4
グローバルな事業展開をサポートする体制が整備		3
オープンイノベーションを積極的に推進し、外部の技術や知見を効果的に活用		17
知的財産リスク管理に積極的に取り組み、紛争の予防と解決に注力		7

5. 知的財産部門の貢献実績を評価するための指標

知的財産部門の貢献実績を評価するための指標としては、以下のものが考えられます。

- **特許取得件数、商標登録件数:** 知的財産の取得状況を把握するための基本的な指標です。味の素は、国内外で多くの特許・商標を取得しており、高い評価を得ています。⁹
- **知的財産による収益貢献:** 特許技術のライセンス供与など、知的財産を活用した収益化の状況を評価します。¹⁶ 知的財産権のライセンス収入は、企業の収益に大きく貢献する可能性があります。
- **知的財産紛争の発生件数:** 知的財産リスク管理の状況を評価します。紛争の発生件数を抑制することで、企業の安定的な成長に貢献できます。
- **従業員の知的財産に関する意識向上度:** 従業員への知的財産教育の実施状況や、知的財産に対する意識向上度を評価します。²⁹ 従業員の知的財産に関する意識向上は、企業の知的財産活動の活性化に繋がります。

6. 味の素の知的財産部門の成功要因

味の素の知的財産部門の成功要因としては、以下の点が挙げられます。

- **経営層の知的財産に対する理解とコミットメント:** 経営層が知的財産の重要性を理解し、知的財産戦略に積極的にコミットしていることが、成功の大きな要因となっています。³⁰
2024年5月には、特許庁長官が味の素を訪問し、藤江取締役代表執行役社長 CEO ほか幹部の方々と知財戦略等について意見交換を行うなど、経営層と特許庁との連携も強化されています。
- **知的財産部門と事業部門との連携:** 知的財産部門と事業部門が密接に連携し、一体となって知的財産戦略を推進していることが、競争優位性の確保に繋がっています。⁷ 味の素では、研究開発の初期段階から知的財産部門が関与し、事業戦略と知財戦略を同期させることで、高速開発システムを実現しています。⁷
- **優秀な人材の確保と育成:** 知的財産に関する専門知識や経験を持つ人材を確保し、育成することで、質の高い知的財産活動を展開できています。⁷ 味の素の知的財産部員は、弁護士や弁理士資格を保有するなど、高い専門性を有しています。⁷ また、特許事務所や法科大学院への派遣など、人材育成にも力を入れています。
- **知的財産管理システムの活用:** 知的財産管理システムを活用することで、知的財産情報の管理を効率化し、戦略的な活用を促進しています。

7. 味の素における知的財産の軌跡

味の素の知的財産の歴史は、1908年に池田菊苗博士が昆布のうま味成分であるグルタミン酸ナトリウムを発見したことに始まります。³¹ この発見は、後に「味の素®」という商品名で世界初のうま味調味料として販売され、味の素の事業の基盤となりました。創業当初から、味の素は知的財産を重視し、特許を取得することで、模倣品対策や競争優位性の確保に努めてきました。³¹ しかし、その道のりは平坦ではなく、特許を巡る訴訟なども経験しています。³¹ これらの経験を通じて、味の素は知的財産戦略の重要性を認識し、現在のような強固な知的財産基盤を構築してきました。

8. 結論

味の素は、アミノ酸をコアとした事業をグローバルに展開する企業であり、その成長戦略において知的財産部門が重要な役割を果たしています。味の素は、知的財産を活用することで、競争優位性の確保、新規事業の創出、知的財産リスクの管理などを実現しています。

味の素の知的財産戦略の特徴として、

- 「見える化」: 事業戦略、研究開発戦略、知財戦略を一体化し、可視化することで、それぞれの戦略を連携させ、相乗効果を高める
- **ASV との連携:** 知的財産戦略を ASV 経営と連携させることで、社会課題の解決と事業成長の両立を図る
- **オープンイノベーション:** 外部の技術や知見を積極的に活用することで、イノベーションを加速させる

などが挙げられます。

今後の展望として、味の素は、デジタル技術の活用、グローバルな視点の強化、オープンイノベーションの推進など、知的財産戦略を進化させることで、持続的な成長を目指していくと考えられます。しかし、グローバル化の進展や技術革新の加速など、企業を取り巻く環境は常に変化しています。味の素は、これらの変化に対応し、知的財産戦略を柔軟にアップデートしていくことが、今後の成長には不可欠と言えるでしょう。また、味の素グループ Way (AGW) を浸透させ、従業員エンゲージメントを高めることで、知的財産を含む無形資産への投資効果を高め、ASVの実現を促進していくことも重要です。³²

引用文献

1. みずほ銀行が味の素に対して実施するポジティブ・インパクト・ファイナンスに第三者意見を提供, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.jcr.co.jp/download/08168092ff038cd98fd57b79b0837c0ee2e33ce2e878be9305/21d1229.pdf>
2. 味の素株式会社, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/strategy/corp_gov/main/0/teaserItems1/03/linkList/05/link/Governance2023_J.pdf
3. 知的財産 | 事業展開 | IR情報 | 味の素グループ, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/business/intellectual_property.html
4. 味の素株式会社 ~Eat Well, Live Well.~, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.ajinomoto.co.jp/>
5. 味の素グループにおけるグローバルビジネスと知財戦略の概要, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.inpit.go.jp/content/100639463.pdf>
6. 『企業価値向上に資する知的財産活用事例集』刊行記念イベント ~無形資産を活用した経営戦略の実践に向けて~ | KIT 虎ノ門大学院 MBA×知的財産マネジメント, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.kanazawa-it.ac.jp/tokyo/toranomon/professional-meeting/1213357_2847.html
7. 味の素グループの知財戦略を通じた企業価値向上の実現, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/event/business_briefing/main/01119/teaserItems1/01/linkList/02/link/Intellectual%20Property_J.pdf
8. 「ありたい姿づくりを大切にする経営」 味の素株式会社 代表執行役社長 藤江太郎 経営者の輪 財部誠一 - YouTube, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=7odu1115nYU>
9. 知的財産 | 研究開発 | 味の素グループ, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/rd/intellectual_property/
10. 食品業界の知的財産戦略に関する事例研究および戦略モデル, 1月10, 2025にアクセス、
<https://ip-edu.org/library/pdf/ipmr/ipmr21toukou01.pdf>
11. 知的財産 Intellectual Property - 味の素, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.ajinomoto.co.jp/company/en/ir/library/intell/main/0/teaserItems1/00/linkList/0/link/IP-Oct2017.PDF>
12. ブランディングってなに? ~ビジネス関連用語の意味と使い方① | ストーリー | 味の素グループ, 1月10, 2025にアクセス、
<https://story.ajinomoto.co.jp/report/095.html>
13. 味の素グループの知財戦略 - 日本ライセンス協会, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.lesj.org/workshop/monthly/doc/east121.doc>
14. 2025年3月期業績予想および企業価値向上に向けた取組み - 味の素, 1月10, 2025にアクセス、

https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/ir/event/presentation/main/01111116/teaserItems1/00/linkList/03/link/FY23Q4_Presentation_J.pdf

15. 特許権等を使って市場をコントロールする, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.meiritsu-patent.com/category2/entry24.html>

16. 特許ライセンス活用ビジネスモデルとその収益性に関する考察 - Deloitte, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/jp/Documents/strategy/ipa/jp-ipa-patent-license-20160520.pdf>

17. オープンイノベーション | 研究開発 | 味の素グループ, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/rd/open_innovation/

18. 味の素株式会社 (企業価値向上に資する知的財産活用事例集から), 1月10, 2025にアクセス、
<https://yoroziupsc.com/blog/2635246>

19. AJINOMOTO グローバル競争戦略 東南アジア・欧米・BRICs に根づいた現地対応の市場開拓ストーリー: 林廣茂 | HMV&BOOKS online, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.hmv.co.jp/artist_%E6%9E%97%E5%BB%A3%E8%8C%82_00000000485101/item_AJINOMOTO%E3%82%B0%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%AB%E7%AB%B6%E4%BA%89%E6%88%A6%E7%95%A5-%E6%9D%B1%E5%8D%97%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%83%BB%E6%AC%A7%E7%B1%B3%E3%83%BBBRICs%E3%81%AB%E6%A0%B9%E3%81%A5%E3%81%84%E3%81%9F%E7%8F%BE%E5%9C%B0%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E3%81%AE%E5%B8%82%E5%A0%B4%E9%96%8B%E6%8B%93%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%83%BC_5048966

20. ajinomoto-patent - 化学業界の話題 (データベース), 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.knak.jp/japan/ajinomoto-patent.htm>

21. 模倣品被害に遭わないために | 経済産業省 特許庁, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.jpo.go.jp/support/ipr/awanaitameni.html>

22. 食品業界に知財戦略の波が起きている ~新規参入した花王の「減塩調味料」特許, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.techno-producer.com/column1min/food-industry-intellectual-property-strategy/>

23. 特許庁、フードテック挑戦企業を支援 広報誌「とつきよ」で特集 - 日本食糧新聞, 1月10, 2025にアクセス、
<https://news.nissyoku.co.jp/news/aoyagi20241225091046256>

24. 食品業界における知財活動に対する警鐘, 1月10, 2025にアクセス、
https://jpa-patent.info/patents_files_old/201603/jpaapatent201603_024-035.pdf

25. 農林水産省知的財産戦略 2025, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/b_senryaku/attach/pdf/index-25.pdf

26. 食品事業 | 知的財産戦略 - 明治ホールディングス, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.meiji.com/innovation/intellectual_property/food.html

27. 模倣品対策 | キッコーマングループ 企業情報サイト - Kikkoman Corporation, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.kikkoman.com/jp/quality/ip/countermeasure.html>

28. 国内企業におけるオープンイノベーション推進事例, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.joic.jp/files/report_1-1_ajinomoto_a.pdf

29. 知財スキル標準 ver.1.0 取扱説明書, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/ipss/downloadfiles/manual.pdf>

30. 味の素株式会社と意見交換を行いました | 経済産業省 特許庁, 1月10, 2025にアクセス、
<https://www.jpo.go.jp/news/ugoki/202405/2024053102.html>

31. 1. 原料蛇説 - 味の素, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/aboutus/history/pdf/his02_4.pdf

32. INTANGIBLE ASSETS - 味の素, 1月10, 2025にアクセス、
https://www.ajinomoto.co.jp/company/jp/activity/pdf/2023/ar2023jp_060-073.pdf